

## 第2回全国集会（大阪）を振り返って

角野康郎（神戸大学）

水草同好会が発足して2年目の会。1回目は東京でやったので2回目（1980）は関西でということで、私がお世話をするようになった。会場を京都にするか大阪にするか迷ったが、大阪市立自然史博物館を会場にお借りすることにした。同博物館は日本の水草研究の基礎を築かれた三木茂先生にゆかりが深く（先生は博物館友の会の会長を長年にわたって務められた）、またご自身の標本が寄贈されていて、故三木先生の奥さんもご出席いただけるということになったのである。

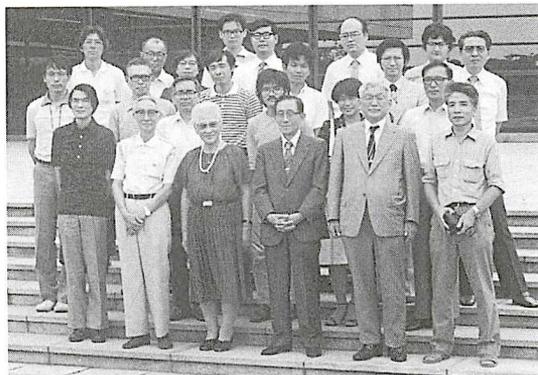
準備といっても何をしていいか分からず、講演を3題依頼して、形を整えた。当時、大学院生として京都大学で研究をしていた私と別府敏夫さんが、それぞれ自分の研究テーマである日本産ヒルムシロ属とウキクサ類の話をし、それに名古屋の浜島先生に東海地方のため池の植生の話をお願いした。会場の準備は、博物館の瀬戸剛、岡本素治両学芸員にすっかりお世話になった。当日、何名の参加者があるか全然予測できなかったが、ふたを開けてみると28名もの参加者があり、これは当時の会員数が数十名であったことを考えると予想以上であった。

このときの総会で水草同好会を水草研究会と改称すること、会報の編集を私が担当することなどが決まった。年会費は1,000円。また京都市にある天然記念物の深泥池水生植物群落の保護につい

て京都市に申し入れを行うことも決まった。研究会としてこのように行政に申し入れを行った最初の例である。

和やかに会は終わり、その後有志で懇親会を行った。このときに三木先生の若い頃の思い出話を奥さんからいろいろと伺うことができた。原稿の清書は全部自分がしたこと、散歩をしても三木先生は水路の中ばかりのぞいておられたことなどの話が記憶に残っている。

当時は見学会はまだなく、1日だけの会であったが、研究会と名前はあらためてみたものの、さてこの先どうなるのやら、まったく未知の出発であった。会報も3号雑誌にならずによく続きますね、などと言われたものだ。今日の盛況はまったく予想外のことであった。



第2回全国集会（於 大阪）1980年8月9日